

『どこにだって』 作：ポチ子

どこにだって行ける。

歩く足があるのだから。

ここに留まろうと決めたのは私だ。

ただ動くのが怖かった。

知らない場所に行くのが嫌だった。

私はどこにだって行けるのだ。

自分で他の居場所を見つけることだって出来た。

でも、私はそれをしなかった。

面倒だったから。

一から始めるなんて、

馬鹿らしく思ったから。

逃げることもしていない。

ただ、ここにいた。

何も変わらないことを選んだのだ。

変わらないことは苦しい。

変えられることを知っているから。

変わろうとしていないのは自分だ。